

◆ ゼミナールの研究テーマ

各国の政治・社会を比較する

◆ 研究内容

<外国書研究>

今まで、毎年、デモクラシー論や人権論関連の本を輪読してきた。(例えば今年は Andrew Clapham, *Human Rights: A Very Short Introduction*, (2nd.ed.) Oxford Univ.Press, 2017 (2200円)

本年も同じような本を読むつもりなので、政治学の英語だけでなく、洋書にも慣れてほしい。

<卒業論文・3年次>

自分のやりたい国や地域を決めて、その政治や社会などについて各自研究を進める。そして、政治と社会のかかわり方、デモクラシーや人権問題などの普遍的問題についても皆で考えていく。初めのテーマは、必ずしも卒業論文につながるものでなくてもよいが、発表、書評、レポートなどを通して、卒業論文に結実するよう指導するので、動機や関心をはっきりしているテーマを選び、持続して研究することが望ましい。

<卒業論文・4年次>

卒業論文指導も、発表やレポートを通じて行う。

<卒業論文例>

「カンボジアにおける貧困・教育問題」「ホームレスと人権」「承認欲求と古着」「ソ連と民族問題」「スポーツによる地方振興—スポーツツーリズム市場拡大のヒント」「現代の戦争伝承について」「マイナスポーツのプロスポーツ化について」「核兵器と映画」「子どもの貧困～貧困の連鎖を断ち切るために～」「非暴力の力」「タイ政治の安定性—クーデターの歴史」「戦争と PTSD」「衰退する出版業」「教育格差と経済格差」など

◆ 応募学生に対する希望

研究テーマがはっきりしていて、ゼミ活動に積極的に参加する学生が望ましい。

◆ 成績評価方法

卒業論文：授業での発表、議論への関与度、卒業論文の完成度によって評価する

外国書研究Ⅰ：授業での発表およびレポート

外国書研究Ⅱ：授業での発表およびレポート

研究分野…比較政治体制、人権研究、デモクラシー論、民主化研究、地域研究

募集人数…15名程度

試験方法…作文、面接

学科指定…なし

関連パッケージ… a 政治理論系、b 国際政治系、c 社会学系、d 国際経済系、g 公行政系、  
h 地域コミュニティ系、i 産業社会系、j 日本・アジア文化系、  
k ヨーロッパ文化系、l アメリカ文化系

関連科目…なし

◆ **ゼミナールの研究テーマ**

選挙と政治意識の実証的研究

◆ **研究内容**

<外国書研究>

春学期は「若者と政治」に関する英語文献、秋学期は日本政治に関する英語文献を読む予定である。和訳担当部分を割り当て、逐語訳をしてもらう。さらに関連する事項について教員から補足説明を行い、ゼミ生からの質疑応答を行う。

<卒業論文・3年次>

情報教室を使用し、データの分析の実習を行う。ゼミ内でグループをいくつかに分け、夏合宿では各グループによるプレゼンテーションを行う。10月には学部ゼミナール研究論集『政経セミナー』に原稿を提出し、同月にはホームカミングデーの際に行われる「ゼミナール報告会」で発表する。

選挙データや世論調査データについて、実習を通して、分散、標準偏差、相関分析、回帰分析、など、統計学に関する基礎的かつ重要な知識を習得する。

<卒業論文・4年次>

就職活動との兼ね合いもあるが、春学期にテーマの決定、秋学期には随時、進行状況を発表し、論文執筆を進める。

<卒業論文例>

「小泉政権とマスコミ・世論」「イラク戦争に関する社説分析」「2015年イギリス総選挙の分析」  
「選挙制度改革再考」「世襲議員の実態」

◆ **応募学生に対する要望**

合宿、ゼミナール発表会、『政経セミナー』執筆など、いずれもグループ作業になるので、各自の役割に対して責任感を持つこと。ゼミの行事（合宿など）に必ず参加すること。入ゼミ時点での知識は問わないが、データを扱う実証的研究に関心のある者が望ましい。なお、欠席の多い者はゼミを辞めてもらうことがあるので留意されたい。

◆ **成績評価方法**

外国書研究：平常点（発表の内容、議論への参加など）。

卒業論文（3年） 発表・作業への貢献度。

卒業論文（4年） 卒業論文の質に対する評価。

研究分野…政治意識論、選挙制度論、日本政治論、アメリカ選挙政治

募集人員…10名程度

試験方法…オンラインによる面接試問

学科指定…なし

関連パッケージ…a 政治理論系 b 国際政治系 c 社会学系

関連科目…計量政治学、政治行動論、ICT統計解析、政治過程論、社会調査法

## ◆ ゼミナールの研究テーマ

国家固有の作用を現代日本に焦点を当てて具体的に分析する。

## ◆ 研究内容

## &lt;外国書研究&gt;

現代日本政治を扱った最近の文献を精読し、書かれている内容について議論し理解を深める。2023年度の使用テキストは次のとおりであった。

Robert J.Pekkanen, Steven R.Reed, and Daniel M.Smith (eds.), 2022. *Japan Decides 2021*, Palgrave Macmillan. ☆精読に徹する。

## &lt;卒業論文・3年次、4年次&gt;

「国家」は諸個人に対して強制可能な決定を作成し、執行する存在として至高の位置を占めている。たとえば、大学が学生に対して科すことのできる最も重い処分はせいぜい退学である。一方、国家は裁判の結果、死刑判決が確定した者に対してその命を奪うことができる。合法的に殺人ができるのは国家だけである。あるいは、覚醒剤の密輸や使用が毎日のように報じられている。これを規制する強制的措置を取りうるのもやはり国家のほかにはない。

私のゼミナールでは、このように国家に固有の作用に焦点を当てて研究を進めていく。その場合、私たちが生きている現代の日本に対象を定めて、具体的な根拠のある議論を展開したい。

ゼミは3・4年生合同の2時限連続で行う。学期別の進め方としては、春学期は3年生に知識をつけてもらうために、現代日本の政治や行政について書かれた最新の書籍を輪読する。2023年度に用いたテキストは次のとおりである。1) 蔵前勝久(2022)『自民党の魔力』朝日新書、2) 大井赤亥(2021)『現代日本政治史』ちくま新書、3) 三浦まり(2023)『さらば、男性政治』岩波新書。

そして、秋学期は4年生の卒業論文経過報告および3年生のテーマ報告となる。

このゼミは2024年度で30期生を迎える。これまで築き上げてきたゼミの「矜持」を掲げておく。

1. 定刻に正確なこと。

2. 無断欠席はしないこと。

3. ゼミ機関誌『BEYOND THE STATE』(明大図書館請求記号009.7/260//H)を毎年度発行すること。

入室希望の学生はこれら3点をぜひ留意してほしい。

ゼミのホームページと私の個人ホームページは以下のとおりである。ゼミ選びの参考にしてほしい。

<http://www.isc.meiji.ac.jp/~kokkaron/>

<https://www.nishikawa-shin-ichi-online.com/>

## &lt;卒業論文例&gt;

「二〇〇九年衆院選前後における自民党の政治言説分析」「死刑執行日と被執行者の人選についての分析」「くじ引きは民主主義の切り札となるか」「族議員が政策決定過程で果たす役割」「地方議会の現状についての実際的な調査」「子ども政策の効果の検討」「消費税増税「反対」をめぐる言論について」

## ◆ 応募学生に対する希望

ルーズな人と言いつばかりする人は苦手なので、その心がけで。

## ◆ 成績評価方法

卒業論文：各学期の平常点（演習への貢献度と参画度）＋卒業論文への取り組みの評価

外国書研究Ⅰ：春学期の平常点（演習への貢献度と予習の状況）

外国書研究Ⅱ：秋学期の平常点（演習への貢献度と予習の状況）

研究分野…現代日本の政治と行政

募集人数…12名程度

試験方法…事前提出された身上書に基づく個別面接

学科指定…なし

関連パッケージ…a 政治理論系

関連科目…政治学説史、日本政治史、西洋政治史、そのほか a 政治理論系パッケージ配置の各科目

◆ **ゼミナールの研究テーマ**  
現代国際政治の理論と政策

◆ **研究内容**  
＜外国書研究＞

ここ数年は、海外で話題となった書籍を取り上げたり、New York Times, Japan Times, Foreign Affairs の記事・論文を抜粋して輪読しています。かつては、米国 Dushkin 社出版のアンソロジーを購入してもらっていました。どちらでもいいと思います。私は、ここ数年起こった国際現象を英語で読むことが大事だと思っています。皆さんが卒業して働き始めたとき、英語の HP を読まされることはこれから増えるのでないでしょうか。

＜卒業論文・3年次＞

ゼミに入るまで国際問題を勉強する機会は、なかなかないと思います。そこで、春学期は受講者の関心を聞いた後、共通するテーマを2～3抽出して、そのテーマの代表的な文献を輪読することになります。夏休みに皆で『政経セミナー』を執筆します。そして秋学期は各自の問題関心に応じてゼミを行います。

私の考えでは、「趣味」とはそれに関して数時間ばかり話ができて初めて趣味です。ましてや、「ゼミ」とは勉強のことですから、「趣味」以上に多くを人に熱く語れる学生になってください。学生のときに関心をもって一生懸命勉強した事柄は、きっといつまでも記憶に残るはずです。

＜卒業論文・4年次＞

3年次に勉強したテーマに沿って各自で研究トピックを一つ選び出して、学年末に卒業論文として提出します。6歳のときから「学校」に行き始めて、長い長い学校生活のしめくりがこの卒業論文です。

＜卒業論文例＞

「アメリカ社会と外交」「ヨーロッパの民族紛争」「人民元と国際通貨」  
「日本の対朝鮮半島政策」「カナダ外交の特徴」「国際政治理論と思想」  
「文化と国際関係」「『自爆テロ』という隘路」「東アジア共同体」「ウクライナ戦争と台湾危機」

◆ **応募学生に対する希望**

文献を読む→まとめる→人の前で報告する→討論するという過程は、学生の間だけでなく、大学を卒業した後においてこそ重要とされる能力です。それを今のうちから厭わないことが大事。大学2年の今は「やる気」と「意欲」だけで評価されます。しかし、4年の就職活動の時、そして社会に出るからは、人にはない何かの「付加価値」がないといけないのです。明治大学に通うこと、政治経済学部にも所属すること、そしてGOゼミを選択することが、何かの縁であってほしいと願います。

GOゼミはこれまで、『外交フォーラム』や、東進ハイスクール機関誌『k i k i』や、防衛庁（現防衛省）広報誌『セキュリタリアン』に紹介されました。ほかに大学のゼミ紹介している雑誌がないかなあと探しています。

◆ **成績評価方法**

卒業論文：平常点による  
外国書研究Ⅰ：平常点による  
外国書研究Ⅱ：平常点による

研究分野… 対外政策の実証研究、日米中関係、国際政治の理論と思想、安全保障、国際政治経済など

募集人数… 10名程度

試験方法… 応募の際に身上書を提出して下さい。身上書の用紙は先輩たちが毎年バージョン変えて苦労して作成し、それをゼミ・ガイダンスで渡しています。それをもとに面接を行います。なお、応募者が定員を超えた場合は、簡単な試験を受けてもらおうかと考えています。また、GOゼミは十大学合同セミナーに3年時は参加することを前提としています。

学科指定… なし

関連パッケージ… b 国際政治系、k ヨーロッパ文化系、l アメリカ文化系

関連科目… 国際関係史、アジア政治論、アメリカ政治論、ラテンアメリカ政治論、アフリカ政治論、ロシア政治論、東欧政治論、国際法、比較政治論、比較政治論（東アジア）、国際経済学、国際民族政策、国際金融論

## ◆ ゼミナールの研究テーマ

人口減少が加速化し、本格的な少子・超高齢社会が到来する中で、日本の都市は、更新すべき古いインフラや公共施設を大量に抱えている。空き家が右肩上がりに増加しているにもかかわらず、長期的な維持管理費や解体費は考慮されぬまま、新規の住宅供給や居住地の拡大は続いている。こうした背景には、現行の都市政策や都市行政が、高度経済成長期につくられた枠組みから根本的に転換できていないという構造的な問題がある。こうした問題に興味を持ち、将来世代に多大な負担を押し付けることのないよう、都市政策や都市行政の構造的な問題を解明し、具体的な解決策を模索したい！という学生は、このゼミナール向きでしょう。

## ◆ 研究内容

## ＜外国書研究＞

世界の人口減少都市の都市政策・都市行政に関する英語資料・英語論文を輪読し、海外における思潮や具体的な取り組み事例を学ぶ。例えば、世界各国の Shrinking Cities の現状、スマートシティや交通政策、アメリカのランドバンクの取り組みなどを輪読する。

## ＜卒業論文・3年次・4年次＞

卒業論文は、個々人のテーマ設定を歓迎する。ただし、そのテーマで調査が可能か否かも含めて、ゼミにおける議論で決めていく。3年次は、様々な自治体のデータ分析や計画図書等を読み解くなど、卒業論文や社会人となった際に必要な知識・分析手法等の習得を中心とする。3年次終了時点で、各自の卒業論文のテーマを決定し、4年次は、各自、テーマに関する分析・調査を進め、随時、ゼミナールで進行状況等を発表し、論文の執筆を進めていく。現状の都市政策や都市行政に対して、自らの視点に基づく明確な問題意識を持ち、解決策を提示したいという意欲的な学生を歓迎する。

## ＜ゼミで着目中の主なテーマ例＞

都市と地方が連携した都市再生・地方創生の仕組みづくり、空き家の発生予防方策と担い手支援、MAAS（≒様々な交通手段・サービスの統合化でより便利な移動を実現するための仕組み）によるまちづくり、スマートシティ、商店街の活性化、GIS や 3D 都市モデルを活用した都市課題の分析、市町村間の広域連携、高経年団地のコミュニティ施策、災害ハザードエリアの土地利用コントロールなど。詳細は下記をご覧ください。

教員のウェブサイト <http://www.isc.meiji.ac.jp/~chienozs/index.html>

野澤ゼミナール学生によるインスタグラム <https://www.instagram.com/chienozs2nd/>

野澤ゼミナール学生によるブログ <https://nozawa-seminar.tumblr.com/>

## ◆ 応募学生に対する希望

無断欠席を繰り返す、積極的にゼミ活動に参加しない学生は年度途中でもやめてもらうことがある。3～4年の期間を就職活動だけで終わらせたくない、様々なチャレンジを躊躇しない学生を求む。

## ◆ 成績評価方法

卒業論文：(1) ゼミへの事前準備、(2) 卒業論文に関わる調査等への取り組み方、  
(3) 卒業論文の内容

外国書研究 I II：(1) 授業に対する事前準備、(2) 議論への参画度

研究分野…都市政策・都市行政に関する研究

募集人数…10名程度

試験方法…身上書などをもとに面接（面接を重視）

学科指定…無し

関連パッケージ…a 政治理論系、g 行財政系 h 地域コミュニティ系

関連科目…自治体経営論、公共政策学、地方財政論、地域行政学、行政学基礎など

◆ **ゼミナールの研究テーマ** 現代の行政、政策形成・政策実施に関する実証研究

「行政」を切り口に考えられるテーマは無限にある。今日では、ゆりかごから墓場までのみならず、食品の成分表示から宇宙探査の実施まで、行政は広範な分野で重要な役割を果たしている。巨大化した行政とそれを動かす官僚の行動をどう捕捉・分析するか、いかに官僚制を民主的にコントロールするか。そして、行政機構をどう駆使し、いかなる政策を実施させるか、ともに考える場としたい。

◆ **研究内容**

＜外国書研究＞

行政学の英語論文を輪読し、海外における「行政のとらえ方」について触れる。

＜卒業論文・3年次＞

3年次は全員で自治体との共同研究もしくはフィールドリサーチを実施する。さらに、その成果を取りまとめ、「ゼミナール発表会」でのプレゼン（10月）、および、さらに「政経セミナー」への論文投稿（12月）というかたちで結実させる。上記と併行して春学期は入門的な文献の輪読と小レポート（輪番）の発表を中心に進める。秋学期はミニレポートの執筆・発表とともに、教科書レベルの文献をもとにプレゼンテーションの練習を行う。

＜卒論論文・4年次＞

卒業論文のテーマと研究計画の立案、中間報告を経て、卒業論文をまとめる。なお、3年生も議論に参加し、卒業論文についてのノウハウを習得する。

＜卒業論文例＞

学生各自の問題関心に根差しているテーマを歓迎する。一例として「コーポレート・ガバナンス強化と『官僚出身』社外取締役の台頭」（2022年度）、「国家安全保障体制の変容に関する考察-国家安全保障局長人事を糸口に-」（2021年度）、「東京都におけるクラフトビール（地ビール等）事業者の参入要因に関する考察」（2020年度）、「フードバンク活動・団体に関する考察」（2019年度）、「交通系 IC カードの格差に関する研究」（2018年度）、「地方公務員における自律性と知事の政治任用権に関する研究」（2017年度）、「ふるさと納税受入額を規定する要因に関する研究」（2016年度）、「世襲と不祥事の関係性」（2015年度）など。

◆ **応募学生に対する希望**

皆さんは12期生となる。活発なゼミ活動を「創造」する意思、意欲を持つ学生を歓迎したい。ゼミの授業、合宿に参加する意思のない学生は志望しないこと。無断欠席、遅刻を繰り返す学生と合宿不参加の学生は除籍する。

◆ **成績評価方法**

卒業論文：演習への貢献度と参画度（発表、発言等）、卒業論文の内容  
外国書研究Ⅰ・Ⅱ：演習への貢献度と参画度（発表、発言等）

研究分野…現代行政に関する研究、政策形成・政策実施に関する研究

募集人数…12名程度

試験方法…レポート課題（個別ガイダンス時にテーマ・字数を提示）＋面接（身上書要提出）

※面接方式は、受験者数に応じて決定する

学科指定…a 政治理論系、g 公行政系、h 地域コミュニティ系

関連パッケージ…いずれも該当する

関連科目…国家論、自治体経営論、都市政策、都市行政、地域行政学など

## ◆ ゼミナールの研究テーマ

自治体行政をめぐる制度・法・政策についての理論的、実証的研究

## ◆ 研究内容

## ＜外国書研究＞

行政学・地方自治に関連する英語文献を読む。使用テキストについては開講時に指示する。

## ＜卒業論文・3、4年次＞

本ゼミナールは、自治体行政という市民生活に密接な関係をもつ問題について、現状を把握し、理論的・実証的研究を行うものである。したがって、地方公務員を志す学生諸君のみならず、市民として自治体行政に関心を持ち続けようという諸君も歓迎したい。この10年ほどの間に進められてきた地方分権改革は、国（中央政府）に統制されてきた自治体（地方政府）が、住民にもっとも身近な政府としてどのような政策をもち、それを実行するのかという問題を提起している。改革派知事らも積極的に地方分権の中で動き始めてきた。こうした動きを行政学や政治学ではどのように理解し、理論的に把握しているのだろうか。また自治体職員はどのように受け止め政策開発に努めているのだろうか。そうした視点から、ゼミ生のそれぞれの関心にあわせて、福祉、まちづくり、環境など、さまざまな分野における自治体行政のあり方を検討してみたいと思う。新型コロナ問題をめぐる中央・地方関係についても研究テーマとしたい。

なお、本ゼミに参加する諸君は、以下の点に留意し、志望してほしい。

- ①教員、他ゼミ生との信頼関係の醸成と共同研究のためのルール遵守
- ②ゼミの自治的な運営
- ③合宿研究会、実証的研究（実態調査）への参加
- ④公務員志望者については積極的に指導するが、受験予備校ではないことに注意

## ◆ 応募学生に対する希望

無断欠席をしないこと。合宿や自主研究などの活動に積極的に参加することを希望する。

## ◆ 成績評価方法

卒業論文：平常点および卒業論文の内容によって評価する

外国書研究Ⅰ：平常点により評価する

外国書研究Ⅱ：平常点により評価する

研究分野…地方分権にともなう自治体行政の改革とその現状

募集人数…15名

試験方法…面接および身上書の内容によって決定する。

学科指定…なし

関連パッケージ…a 政治理論系、g 公行政系、h 地域コミュニティ系

関連科目…自治体経営論、地域行政学、都市行政・都市政策、地方財政論、公共政策学

◆ **ゼミナールの研究テーマ**

今の政治について「どうすべきか」を考えるためには、今の政治が「なぜ・どのように動いているのか」について検討する必要があります。現状を十分に検討せずに提言・提案を行えば、方向が間違っていたり、実現可能性が低かったりしかねないからです。本ゼミナールでは、政治の現状について客観的・論理的な理解を深めるために、科学的推論（実験・実証分析・数理理論）の方法を紹介します。そして、目の前にある問題について直感や思い込みを捨てて検討する力を身につけることを目指します。研究テーマとしては、一般有権者の政治行動・政治意識形成のプロセス、および一般有権者と政治家・政府・メディアとの関係を中心に、現代政治全般に関心がある人を歓迎します。地域的な関心は、日本やアメリカを始め、世界中どこの国でも構いません。卒業論文では、量的手法・数理理論を用いた分析をしてもらいます。

◆ **研究内容**

## &lt;外国書研究&gt;

受講者の関心に応じ、投票行動、政治参加、世論、政治コミュニケーション・メディア、政治心理、政治と社会的アイデンティティ・ジェンダー、政治家行動、選挙・政治制度などの分野から英語論文を購読します。春学期は一般的な理論・モデルに関するクラシックな文献、秋学期は最新の实証分析文献を中心に読む予定です。各文献の担当者を決め、その人の司会でディスカッションをします。

## &lt;卒業論文・3年次&gt;

科学的思考法を理解し、それに沿った研究を行えるようになることを目指します。前半は仮説検証という考え方、仮説検証の理想形である実験、論理的思考を行うツールとしての数理理論について学びます。後半は、世論調査などの観察データを用いた研究デザイン、および実証的な分析を行うツールとして、統計ソフト R を用いた分析の行い方と、分析結果の適切な解釈について学びます。夏から秋にかけて、グループに分かれて実験デザインのコンペをする予定です。相互評価で「一番面白い」となった実験を実際に行い、みんなで分析したいと思います。

## &lt;卒論論文・4年次&gt;

各自の関心に応じてテーマを設定し、実験、実証分析、もしくは数理理論を用いた分析を卒業論文にまとめます。基本的には、仮説検証型の論文を書いてもらいます。ゼミ内では、進捗を発表し、討論を行います。

## &lt;卒業論文テーマ&gt;

本年度がゼミの第1期なので、どんなテーマ・関心が受講者から出てくるのかを楽しみにしています。上で述べたテーマに加えて、現代政治の現状分析に関連していれば基本的に何でも歓迎します。

◆ **応募学生に対する希望**

## &lt;文献の読み方&gt;

文献や知識を、情報としてただ受け入れるのではなく、それらを使って考え、ディスカッションに積極的に参加することを求めます。文献を読んだら、少なくとも2,3つは疑問やコメントを準備してきてください。ゼミ中に黙って発言しない場合は、読んでいないのと同じと見なします。誤解や論点のズレがあっても、むしろそれらは理解を深めるきっかけになるものですから、間違いを恐れず発言してください（理解間違い程度で減点はしません）。

## &lt;英語について&gt;

現代政治分野の実証・科学研究は、欧米圏で多くの成果があります。本ゼミナールでは短い新聞記事ではなく、学術論文・学術書をメインに毎週複数の英語文献を読むことを覚悟してください。英語の授業ではないので、1字1句精読することは求めませんし、勧めません。複雑な英語論文の要点をどう効果的につかみ、いかに現代政治について自分の理解が深められるか、という点に注力して読んでください。学生の意欲がある場合、留学生がいる場合は、英語でディスカッションを行うことも想定しています。また、欧米圏における知見を、日本を含む非欧米圏のコンテキストにどう適用・応用しているかについて考えるモチベーションがある学生を歓迎します。

## &lt;分析手法について&gt;

本ゼミナールの卒業論文は、量的分析手法、もしくは数理理論を用いることを条件とします。具体的な手法・ツールについてはゼミ中に紹介するので事前知識は特に求めませんし、数学が得意である必要もありません。ただし、数字・統計を用いた論理的・客観的な思考法を育てる心の準備をしてきてください。

◆ **成績評価方法**

**外国書研究：**担当文献の発表・ディスカッションの司会、およびディスカッションへの参加度を総合的に評価します。

**卒業論文：**研究発表・ディスカッションの参加度、グループワーク・卒業論文のクオリティを総合的に評価します。

研究分野…実証・数理政治学（特に選挙、世論、民主主義）・政治学方法論

募集人数…10～12名

試験方法…小論文（A4用紙1ページ程度を2問）、必要に応じて面接

学科指定…なし

関連パッケージ…a 政治理論系 b 国際政治系 c 社会学系

関連科目…政治過程論、政治行動論、計量政治学、メディアと世論、現代社会心理学



## ◆ ゼミナールの研究テーマ

現代社会の諸問題への思想的なアプローチ

## ◆ 研究内容

## ＜外国書研究＞

英語の新聞記事（あるいはネット上の英文記事）を選んで読み、取り上げた記事のテーマに関連するディスカッションをする。また、数週つづけて一つのテーマを扱うこともある。訳の担当者以外に、その日扱うトピックに関して話題提供者（通常2名）を決め、内容を補足し、議論の素材とする。

## ＜卒業論文・3年次＞

- ① 現代政治理論・社会理論に関連する文献の講読。春学期はこれに加えて、グループで共同論文を作成する（テーマについては受講者で相談して決める）。ゼミナール発表会に参加する。秋学期はトピックを絞って、ある程度専門的で難解な文章でもきちんと読めるような訓練をしたい。秋学期もグループ作業を取り入れる年もある。グループ報告と輪読を同時並行して行う。
- ② テーマを選んで他ゼミ（他大ゼミを含む）と交流する。
- ③ 学生が興味を持つテーマについて、ゼミ卒業生、他大学教員などから体験を聞き、質問する場をもうける。（②③は年度による）

## ＜卒業論文・4年次＞

卒業論文の構想を作る。テーマの選定に関しては、参考資料を集めながら熟考してもらおう。論文にならないテーマについては再考を促す。目次づくりと資料収集を並行してすすめる。分野によってどのような経路で論文執筆にたどり着くかを指導する。中間報告を一人数回行う。草稿をくりかえし添削する。

## ＜卒業論文例＞

卒業論文は、思想史・現代思想のほか、現代社会理論・現代文化論や社会問題（国内・国際双方を含む）をテーマとして取り上げてよい。地域や分野を限定しないが、「現代」「現在」の社会と触れ合うテーマであることを希望する。

## ◆ 応募学生に対する希望

応募の時点では、「体験」より「観察」と「熟慮」を重視する。また、博識であることより、よく考えることが大切。自分の意見や態度を決定する前に、目の前の文章が本当は何を言おうとしているのかを、よく理解しようとすることも必要である。楽しいけどきつい、気がつけば一生懸命というゼミを目指している。ゼミ生同士信頼し合えるよき友人となることで、ゼミそのものにも活気とやる気が溢れてくる。しかしそのために必ずしも社交家でなくともよい。重要なのは違った個性に対する許容度と想像力の方である。ゼミは、異なった個性の人たちが共同性を生み出す実験の場となりうる。それは「大学時代」という特異な時期が可能にする貴重な経験となるはずだ。

ほかに学生たちに頼みたいのは、遅刻しないこと。欠席の場合必ず理由を届けること。

## ◆ 成績評価方法

卒業論文：3年次の演習への貢献度、4年次の演習への貢献度、グループ報告への熱意。ゼミへの貢献度（発表、報告、ゼミ内での役割分担、発表などへの意欲）、卒業論文の完成度

外国書研究Ⅰ：演習への貢献度、報告、ゼミでの発言、積極性

外国書研究Ⅱ：演習への貢献度、報告、ゼミでの発言、積極性

研究分野…現代思想・現代政治理論

募集人数…20名以内

試験方法…身上書に基づく面接（オンラインでの面接）

学科指定…なし

関連パッケージ…a 政治理論系、b 国際政治系、c 社会学系、g 公行政系、k ヨーロッパ文化系

関連科目…政治学説史、日本政治思想史、西洋政治史、国際関係

◆ **ゼミナールの研究テーマ**

〈公共〉とは何かについて制度や理論・思想の面から考えます。それをもとにゼミ生が研究テーマを自由に選び、各班に分かれて調査を行います。これまで、公教育の役割（学力格差）や地方での公共社会の持続可能性、メディアの公共的役割などを研究し、成果を発表してきました。

外書研究（↓）では、海外の新聞記事を読解することで、国際社会で起きている政治経済の問題を深く理解し、その解決策についてグループに分かれてディベートを行います。最近では、他大との合同ゼミや留学生受け入れ、フィールドワーク等、新しい試みにも取り組んでいます。

◆ **研究内容**

＜外書研究＞

イギリスの週刊紙 *The Economist* の最新号から記事をゼミ生が選択し、グループに分かれて報告を準備してプレゼンし、ディベートを実施する。世界の政治経済の時事問題、たとえば米中関係（安全保障・貿易摩擦）や環境問題からジェンダー(LGBT)まで、さまざまな話題をとりあげる。

＜卒論・3年次＞

- ① プレゼミ（3月）で政治学や法学の入門書を読んだうえで、春学期は公共理論・思想に関する文献を、秋学期は時事的な政治・社会の問題を扱ったテキストを読み、討論する。
- ② 春学期の最初に、共同で取り組むテーマを決め、グループごとに研究を行う。そして、夏合宿や合同ゼミでその成果をプレゼンする。その後、『政経セミナー』に掲載する。
- ③ 立教大学法学部の政治理論ゼミとお互いのキャンパスで交流しゼミでの学びを深める。新たに、大阪大学法学部のゼミとの合同合宿の企画も検討中である。

＜卒論・4年次＞

アカデミックな論文を読んで論文の書き方を学びながら、卒論作成に取り組む。

＜卒業論文例＞

政治経済社会の問題の背景にある論理を掘り下げるものであれば、テーマや方法は限定しない。

例：教育格差、ポピュリズム、サイバー空間の安全保障、ネット炎上、市民教育、正義論…

◆ **応募学生に対する希望**

このゼミでは、主体的に意見が述べられること、協働のコミュニケーション、2つの力を身につけることをめざします。そうした意欲のある学生の応募を期待します。無断遅刻・欠席は厳禁！

◆ **成績評価方法**

卒論：ゼミへの参加、卒論の内容により総合的に評価

外書国書研究Ⅰ：平常点（発表の内容、ディスカッションへの参加）

外書国書研究Ⅱ：平常点（発表の内容、ディスカッションへの参加）

研究分野…政治理論・政治思想（特に近現代フランスとアメリカ）

募集人数…10-12名程度

試験方法…面接（ゼミ指定のESを事前提出）

学科指定…なし

関連パッケージ…政治理論系、国際政治系、ヨーロッパ文化系、アメリカ文化系など

関連科目…特になし

## ◆ ゼミナールの研究テーマ

『世界のなかの日本政治』を歴史的に分析する。ここで日本政治が意味するものは、政治的事象だけではなく、社会、経済、文化、教育、環境など多岐におよぶ。つまり、日本国内で起こったさまざまな事柄が、国内要因だけでなく、世界の動きと密接な関係を持ってきたことを確認し分析する。合わせて、政治学の基礎知識を確認しながら、理論と国内外の事例などを比較しながら「現実」を学ぶ。

## ◆ 研究内容

## &lt;外国書研究&gt;

イギリス、アメリカ、日本で出された英字新聞・雑誌などから、時事問題を中心とした記事や論文を選び、それらを教材とする。これによって語学勉強だけでなく、国によって異なるさまざまな事象が報じられていることを知るとともに、異なった視点やアプローチのし方、論理などがあることも学ぶ。

## &lt;卒業論文・3年次、4年次&gt;

このゼミは3年生と4年生が合同で、2コマ連続しておこなうことに特徴の一つがある。発表をするのは3年生だけだが、3年生を4つの班に分け、うち2つを歴史班、残りを政治班とし、歴史、政治の班ごとに週代わりで発表する。なお歴史班と政治班は春学期・秋学期で入れ替わる。

歴史を学ぶことの意義の一つは現在を理解することにある。しかし多くのばあい、現在と過去を結びつける作業が十分におこなわれていない。めまぐるしく動く「現在」に眼を奪われてしまう、もしくは過去を分析することが煩雑であるからだ。ゼミでは「現在」を知り理解するためにも「過去」との対話をくり返しおこない、また「世界のなかの日本」を理解することで、ゼミ員一人ひとりが独自の歴史観と政治観、ひいては社会と人間を見る眼を養うことを目的とする。合わせて、社会事象を政治学のパースペクティブからアプローチすることで、歴史の政治学的分析をおこなう。

なお4年生も4班に分け、3年生の研究指導にマン・ツー・マンであたる。また3年生の発表時には、司会や質問をおこなうことで、円滑にゼミを運営するとともに、問題の所在を明確にする。

卒業論文は、3年次の終わりまでに各自が自分の関心事にひきつけてテーマを選び、4年次では数回に分けて中間発表をおこなう。これによって、理論構成と文章の完成度を高めることとする。

## &lt;卒業論文例&gt;

学生個人の問題関心に基づくため、論文テーマは多岐に及ぶ。昨年度までの例としては、「あるべき医療政策を考える」「国民の司法参加のあり方」「マレー半島における複合社会の形成」「わが国における食品安全問題」「公務員制度改革」「日本型雇用システムにおける人材開発の優位性」「地方交付税制度と市町村合併」「芸術文化の公的支援」「諫早湾干拓事業からみる公共事業」「地方銀行論」「日本の難民政策の改善に向けて」「戦争・紛争時における犯罪と国際刑事裁判所」「新時代の保育サービス」などがある。

## ※その他の活動

ゼミだけではより幅広い視野を持つことに限界があるため、他大学との交流を積極的におこなっている。このインターカレッジ活動では「ディベート大会」(年2回)や研究会などがある。人的ネットワークづくりにも役立つ。またゼミでは、「3分間スピーチ」「ミニ討論」などをとおして論理に加え、口頭による表現のし方も学ぶ。

## ◆ 応募学生に対する希望

現状の自分に満足している学生は必要としない。社会を根底から理解しようとするもの、やる気・研究心がある学生を望む。通常のゼミ活動自体が他ゼミと比べて極めてハードであること以上に、ディベートの勉強に際しては想像以上に時間とエネルギーをさかななければならない。自己満足しているもの、中途半端な気持ちでいるものにはついてくることさえ難しい。その意味でもチャレンジ精神や「変革のころざし」にあふれる学生を望む。リーダーになることを目指す者には最適だと考えている。

## ◆ 成績評価方法

卒業論文：演習への貢献度実績に基づき判断する

外国書研究Ⅰ：演習への貢献度実績に基づき判断する

外国書研究Ⅱ：演習への貢献度実績に基づき判断する

研究分野…近現代日本政治一般。特に足尾鉍毒事件、および三木武夫研究。

募集人数…10名程度。

試験方法…面接。

学科指定…なし。

関連パッケージ…指定はない。各自の問題関心にあわせて選択すること。

関連科目…指定はない。各自の問題関心にあわせて選択すること。

◆ **ゼミナールの研究テーマ**

日本政治思想史の諸問題

◆ **研究内容**

＜外国書研究＞

日本は、中国や西洋の先進的な文明を輸入し、「翻訳」し続けてきました。「翻訳」は困難な営みですが、翻訳語が日本語として定着した結果、外来語であることに無自覚になり、「翻訳」に伴う問題にも気づかなくなっています。そのような状況から脱出することを目指して、中国や日本の古典の英語訳、日本政治上の重要文書の英語訳、英語で書かれた日本政治思想史の研究書などを、参加者の英語力と問題関心に合わせて読んでゆきます。

＜卒業論文・3年次＞

最初に基本的な文献を読み、日本政治思想史のテーマや論点を大まかにつかみます。そのうえで、参加者の問題関心に沿って、研究書や原典を講読します。こうした活動を通じて、卒業論文のテーマ設定を行い、調査を進めます。また、レポートの執筆を通じて、論文執筆の作法を身につけます。

＜卒論論文・4年次＞

参加者の問題関心に沿って、研究書や原典の講読を行いつつ、卒業論文の作成を進めます。中間報告、中間レポートの作成を積み重ねながら、卒業論文を完成させます。

＜卒業論文例＞

7期生の卒業論文のテーマは、渋沢栄一、小林一三、開戦と終戦、世代論、ジェンダー観と政治参加、政治と宗教、教育格差、現代の差別、新型コロナウイルス感染症、AI、人口の変遷史、暦。現在、卒業論文に取り組んでいる8期生のテーマは、戦争と政治体制、日本の安全保障、特攻と責任、女性史と政治、ギャル文化、男女差別と政治、スポーツと政治、ベトナムと日本、日韓関係とメディア、災害史、国歌、天皇号、皇族、日本の美的価値、日本の食文化など。「政治思想」は間口が広いので、直接的には「政治」に関係ないことでも、「政治」と関連づけられれば、どんなテーマでも構いません。

◆ **応募学生に対する希望**

「異質な他者」を拒絶するのではなく、「異質な他者」との出会いを求めて下さい。

ゼミの活動に熱意と責任をもって取り組んでください。無断欠席は厳禁です。

卒業論文演習は3・4年合同・2コマ連続で行います。負担が増えても単位は増えませんが、異なる学年の学生が共に学ぶことに意義を感じて下さい。

◆ **成績評価方法**

卒業論文：演習への貢献度、報告・討論への参加、レポートなどと卒業論文の内容を総合的に評価。

外国書研究Ⅰ：演習への貢献度、報告・討論への参加などを総合的に評価。

外国書研究Ⅱ：演習への貢献度、報告・討論への参加などを総合的に評価。

研究分野…日本政治思想史、江戸時代の政治思想、言語研究と政治思想の関係

募集人数…10名程度

試験方法…身上書に基づく面接

学科指定…なし

関連パッケージ…政治理論系、国際政治系、日本・アジア文化系。なるべく幅広く学んで下さい。

関連科目…日本政治思想史、日本政治文化論

◆ **ゼミナールの研究テーマ**

国際関係史：国境を超えた歴史はいかに現代の国際社会を形作ってきたか

◆ **研究内容**

本ゼミナールでは、国際関係の歴史や現在の問題を学びながら、現代の国際社会における様々な問題を考えることを目的としている。担当教員の専門分野はヨーロッパの国際関係史であるが、研究の対象をヨーロッパに限定せず、グローバルな世界の歴史を取り上げて、現代の国際社会が抱える様々な問題がいかなる歴史的な経緯のなかから生まれてきたのかを学んでいくことで、そのような問題をどのように解決していけばよいのかについて、各人のなかで考えを養っていききたい。

3年生の間は、基本的文献の輪読に加え、インカレ団体への参加や他大との合同ゼミなど、多く学びに時間が割かれる。ゼミが始まった当初は議論も上手く行かないが、一年も経つと皆活発に議論できるようになるものである。4年生の間は、卒業論文執筆に向けての取り組みに充てられる。卒業論文は、この世の中の問題に対して、自分で何が大切なのかを見つけ、そしてなぜそれが大事なのか、自分はどうか考えるのかを、自分自身の言葉で書くことを重視して指導する。

専門的なことを勉強するのも、他者と議論するのに、一人で知識を深めることも、すべては自分自身の精神世界を広げ、世界を見る解析度を挙げていく作業である。自分にすべてが返ってくるがゆえに、あまり硬くならず、楽しく、まじめに、そして大きな目標をもって進めていきたい。

## &lt;外国書研究&gt;

各自が興味を持つ英語の論説記事（ただし、媒体はこちらで指定）を取り上げ、その内容を適切に読解しながら議論する。

## &lt;卒業論文・3年次&gt;

国際関係の歴史を学ぶ際に欠かせない国際関係論の基本的な議論や、国際関係史の基本的な視座を学びながら、各人が関心を持つ国際社会上の問題について、書籍やウェブといった様々な媒体から情報を獲得しながら議論を組み立てていく訓練を行う。

ここ最近、春は3・4年合同のゼミ合宿を、夏にはそれぞれの学年に分かれて合宿を行っている。また、3年生春学期の間に、約3か月間のインカレ勉強会（十大学合同セミナー）に参加し、3年生秋学期には、慶応義塾大学・法政大学・東京大学法学部との合同ゼミを行っている。

## &lt;卒業論文・4年次&gt;

卒業論文の作成のために、個別具体的な指導を行う。エピグラフを付ける、二万字以上、四章構成を卒論執筆の際の必要要件として定めている。

## &lt;卒業論文例&gt;

「ヘンリー・A・キッシンジャー：理論と実践のはざまに」「大日本帝国と日本地政学：小牧實繁の思想と理論」「オランダのサスティナビリティ意識の定着」「ドイツと日本における緑の党の形成と定着」「冷戦期アメリカの第三世界に対する人口抑制政策の思惑と衰退」「ロック・ミュージックは政治を動かすのか」

過去のゼミ生の卒論タイトルは、ゼミのHPに掲載しているので、そちらを参照して欲しい。卒業論文のテーマは、ゼミ生が決めることである。教員の役割は、ゼミ生が選んだテーマをいかにして実証的に、論理的に、そして学問的にするかについてのアドバイスをすることに留まる。

◆ **応募学生に対する希望**

国際関係や現代史など、ゼミの研究内容に興味があること。無断で遅刻欠席しないこと。

◆ **成績評価方法**

卒業論文：卒業論文の論理構成、説明の妥当性・説得性、論述の質、テーゼのオリジナリティを元に総合的に判断する。

外国書研究Ⅰ：毎回のゼミナールでの発表を元にして評価する

外国書研究Ⅱ：外国書研究Ⅰと同じ。

研究分野…ヨーロッパ統合史、EU論、国際関係史

募集人数…10名程度

試験方法…自分が入室後研究したいテーマに沿った、国際関係、政治、近現代史に関する新書・文庫を一冊書評すること。この書評と身上書を元に面接を行う。詳しくはゼミのSNSやゼミガイダンス資料を参照のこと。

学科指定…無し

関連パッケージ…政治理論系 b. 国際政治系パッケージ、k. ヨーロッパ文化系パッケージ

関連科目…国際関係史、国際政治学、比較政治論等の a. および b の政治学、国際関係論関係科目

◆ 研究テーマ

「20世紀アメリカ・ドイツにみる“人種とジェンダー”」

20世紀のアメリカ・ドイツにおいて、人種はどのように問題化され、人種差別撤廃に向けていかなる取り組みがなされたのか。本ゼミナールでは、人種主義の根底をなす優生思想に着目し、日本での優生思想の広がりを理解したうえで、①アメリカとドイツ（主にナチス期）の人種主義の共通点と相違点、②ドイツ占領期（1945-49）と西ドイツ時代にみられた黒人兵士を介する人種主義の交差、③異人種間での恋愛・結婚および性暴力の実態、④東西ドイツの人種主義の違いを明らかにしつつ、“人種とジェンダー”の関係性を歴史的に考察する。※最終的にはゼミ生の要望に応じて研究テーマを決める。

2023 年度のテーマ：「戦時性暴力の日独比較：男性の性被害を中心に」

◆ 研究内容

<①外国書研究・原典研究（3年次）／ ②卒業論文（3年次）>

毎回5-6人の各担当者が、① 30行程度の英文（論文・記事）を全訳し、訳文を確認したのち、内容について議論する、② 日本語文献に関する概要・意見・問題提起などをレジュメにまとめ報告する。成果は「ゼミナール発表会」と『政経セミナー』で発表する。

2023年度の主要文献は下記の通りである。

- ・Dorota Glowacka (2021), Sexual Violence against Men and Boys during the Holocaust: A Genealogy of (Not so Silent) Silence, in: *German History*, Vol. 39, No. 1, pp. 78-99.
- ・上野千鶴子他編（2018）『戦争と性暴力の比較史に向けて』岩波書店。
- ・歴史学研究会他編（2014）『「慰安婦」問題を／から考える』岩波書店。
- ・レギーナ・ミュールホイザー（2015）『戦場の性：独ソ戦下のドイツ兵と女性たち』岩波書店。

<卒業論文（4年次）>

資料収集の方法、資料の読み方、論文の書き方を指導する。毎週2-3人が卒業論文の中間報告を行い、その内容について全員がコメントする。卒業論文テーマは政治・社会・文化・ジェンダー・セクシュアリティに関連していれば自由とする。

これまでの主な卒業論文のテーマは下記の通りである。

- ・世界：ナチズム（メディア戦略・戦後補償、『進撃の巨人』）、インテリジェンス、人種・民族問題、移民／外国人労働者、多文化共生、デモクラシー、リベラリズム、ナショナリズム、ポピュリズム、テロリズム、サッカー界にみる民族・人種問題、プロパガンダ絵画 ほか
- ・日本：米軍基地、日本海軍、歴史認識、学生運動、若者・消費文化、絵画、戦争と映画、暴力団、教育格差、貧困、小児医療、生命倫理、いじめ、高齢者の労働活用、地方・住民自治、地方創生、農業、学生ボランティア、eスポーツ、笑い ほか
- ・ジェンダー：LGBTQ、異性装、結婚、産児制限、生殖医療、風俗産業、性教育、男性の育児、スポーツの男女格差、瘦身、男女共同参画、女性音楽家、ディズニー映画、宝塚歌劇団 ほか

※9月開催の3・4年生合同合宿の際に、3年生はゼミナール発表会、4年生は卒論の内容を発表する。

◆ 応募学生に対する要望

無断で遅刻・欠席をしないこと。毎回事前に Oh-o! Meiji 上で文献やレジュメを公開するので、各自予習をし、質問や意見を用意してくること。好奇心が強く、試行錯誤しながら広く柔軟に物事を考える人、ひとの意見をしっかり聞き、自分の意見を積極的に述べる議論好きな人を希望する。

◆ 成績評価の方法

外国書研究／原典研究：授業への取り組み状況（報告・発言・出席）40%、訳文の正確さ60%

卒業論文（3年次）：授業への取り組み状況40%、レジュメ・報告の内容60%

卒業論文（4年次）：授業への取り組み状況40%、レジュメ・卒業論文の内容60%

研究分野…ドイツ近現代史（政治、社会、ジェンダー、セクシュアリティ）

募集人員…10-12名

試験方法…面接（指定の身上書を事前に提出すること）

◆ **ゼミナールの研究テーマ**

「福祉医療」「老死孤独」「排除差別」「貧困格差」にかんする国際比較

◆ **研究内容**

個人化とグローバル化のなかで、年金・福祉、健康・疾病・障害、生殖テクノロジー、古い・死、自殺・孤立・孤独、障害者・同性愛者・外国人などにたいする差別・社会的排除、貧困、ホームレス、野宿者、階層・格差・不平等の再生産などの社会問題がある。これらの問題は急激な社会変動の産物であり、現代社会の本質と人間の生きる希望と苦悩を凝縮している。本ゼミナールでは社会学的なアプローチから、これらの問題の現状を実証的に分析し、より生きやすい社会に改造するためのアイデアや方策を考案する。本ゼミナールの主な特徴の一つは日本だけではなく、中国・東アジアなども含む、国際的な視野のなかで比較研究するところにある。本ゼミナールの探究はゼミ生の今後の人生設計や生き力の向上に役立つ。

## &lt;外国書研究&gt;

Lewis A. Coser, *Masters of Sociological Thought* から抜粋した、現代社会学の基礎になっている代表的な社会学思想家の基本概念・主な考え方に関する内容を精読する。外国書研究によって、英語の文献に慣れ、現代社会の分析と人間認識に役立つ社会学的思考法の真髄を習得する。

## &lt;卒業論文・3年次&gt;

(a) 卒業論文を書くための必要な知識と分析技法の習得。教員が指定した教科書をグループで分担して発表し、全員で質疑を行い討論する。

(b) 調査研究を中心とする共同研究の発表。「福祉医療」「老死孤独」「排除差別」「貧困格差」などの社会問題にかんする関心の違いから、異なるグループを作る。各グループは共同に研究したいテーマを設定し、社会調査あるいは文献研究によって研究し、発表する。聴き取り調査など、社会調査できるテーマは社会調査を行う。共同論文として『政経セミナー』に提出し、「学部ゼミナール発表会」や「オープンゼミ」で発表する。たとえば、以下のようなテーマである。

「地域福祉と住民参加」「家族・地域の変化と高齢者の孤独問題」「ジェンダーの視点からみる介護問題」「民生委員が語った町内会の実態」「地方へ移住した家族と孤立」「生活保護からみる母子家庭の貧困」「介護分野における外国人労働者の受け入れの実態」「東日本大震災における遺族と死の受容」「日本社会における無縁死」「日本人の自殺と死生観」「日本における安楽死と尊厳死の現状」「現代人の身体観と摂食障害」「代理母などの生殖にかんする医療技術と生命倫理」「終末医療における自己決定」「健康と教育格差」「非正規労働者の増加と格差社会」「階層と健康・寿命の格差」「地方の教育・医療の格差」「ホームレスに関する施策」「戦争と中国残留孤児問題」「同性愛者に対する差別とその背景」「日本型社会的排除の実態」「病気遺児家庭の生活と貧困」「中国の<社区>福祉」「中国社会における都市部と農村部の格差」など。

(c) 外国からの教授の講演を聴く（年度による）。

3年次では、各自の問題関心と課題を発見する能力とゼミ生自身の資料収集の能力、プレゼンテーションの能力の向上を目的とする

## &lt;卒業論文・4年次&gt;

4年次の4～10月、ゼミ生は卒業論文を執筆し、発表する。11～12月、教員からの卒業論文にかんする個別指導をうける。

## &lt;卒業論文例&gt;

「若者の年金不安と年金観」「超高齢化社会における高齢者の ICT 技術との関わり方」「老老介護の実態と課題——老人のインタビューを事例として」「日本社会の無縁死の現状」「日本人の自殺と日本文化」「母子家庭の貧困と対策」「カンボジアの貧困と児童労働」「家族の格差と子どもの学歴への影響」「日本における外国人労働者の実態」「結婚観への家族階層の影響について」「終末医療における自己決定」「東日本大震災からみる家族・近隣」「地域間での医療格差に関する調査」「ニートとフリーターの生活と福祉問題」「同性愛者がどう差別を感じたか」「日本における社会的排除の諸形態」「中国の<社区>と地域福祉」「東日本大震災における遺族と死の受容」。

◆ **応募学生に対する希望**

知的好奇心と学習の意欲をもつ学生と東アジアなど海外の社会問題を研究したい学生を歓迎する。明るく笑い声が響く知的なゼミナールを一緒に創りましょう。

◆ **成績評価方法**

卒業論文：3年次の演習への貢献度、4年次の演習への貢献度、ゼミでの発表・発言、提出された卒業論文の完成度による総合評価

外国書研究Ⅰ：演習への貢献度、ゼミでの発表・テストによる総合評価

外国書研究Ⅱ：演習への貢献度、ゼミでの発表・テストによる総合評価

研究分野…社会学、社会福祉政策、日本型福祉国家研究、日中比較社会学

募集人数…10名程度

試験方法…身上書（ゼミ独自の様式）と面接

学科指定…なし

関連パッケージ…c.社会学系、g.公行政系、h.地域コミュニティ系

関連科目…社会学、社会福祉政策論、コミュニティ福祉論

◆ **ゼミナールの研究テーマ**

家族・人口・コミュニティの比較研究、および人口減少社会のデザイン（地方創生×人口政策）

◆ **研究内容**

＜外国書研究＞

日本の社会・文化・歴史を論じた英書を用いて、日本社会について英語で理解し表現する力を養う。

＜卒業論文・3年次＞

文献研究を行いながら、全国のさまざまな地域から数カ所を選んで、フィールドワーク（現地調査）を実施し、共同論文を執筆する。研究は班に分かれて行い、各班につき1本の論文を書き上げる。全体を総合して『政経セミナー』に投稿し、ゼミナール発表会にも参加する。卒業論文執筆のための方法と技能を習得すると同時に、広く世間を体験して、就職活動はもちろん、卒業後に社会人として必要なコミュニケーション力とプレゼン力を身につけることが目的である。近年の研究テーマは『『社会による子育て』とは何か』『観光による地方創生』『ローカル・インダストリーの比較社会学』『自然と文化からみる地方創生』『地方創生のための公共インフラ』『まちづくり×ひとづくり—地域の持続可能性を高める』など。

＜卒業論文・4年次＞

卒業論文を執筆する。研究のステップ——(1)問いの設定、(2)文献研究、(3)仮説の構成、(4)資料収集・調査・分析、(5)草稿の執筆と検討——に応じて、報告と討論を行いながら進めていく。

＜卒業論文例＞

「平成生まれの就職・恋愛・結婚」「若者の性と自立」「出産の過去・現在・未来」「親権法の国際比較」「家族政策・人口政策の歴史」「日本の食文化の歴史と地域性」「地域社会における互助組織の再生」「公民連携地方創生の可能性」「LRTによる交通まちづくり」「再生可能エネルギーによる地方創生」「東日本大震災と復興」「これからの減災対策」「地方銀行の挑戦」「漁師という職業」「地域史と家族史」「北海道に受け継がれた思想」「アイヌ文化の伝承」「東北地方の歴史と未来」「東京一極集中と地方社会の持続可能性」「九州のこれから」「近代世界システムとナショナリズム」「飢餓と食品ロス」「イスラームとキリスト教」「西欧と日本の自然観」「スペインの地域性」「フィンランドの子育てと教育」「日本型多文化共生社会の実現」

◆ **応募学生に対する希望**

グローバル志向の人、ローカル志向の人、いずれも歓迎です。国際交流を行うためには、母国の社会・文化・歴史に関する知識・見識と、これらについて語る力が不可欠です。国内派の人は日本の社会・文化の多様性と地域性を学びましょう。留学希望者も地方出身者も歓迎します。グローバルなゼミの創生が目標です。

◆ **成績評価方法**

卒業論文：卒業論文内容、ゼミ活動への参加、発表内容、討論への貢献度による総合評価  
外国書研究Ⅰ・Ⅱ：ゼミ活動への参加、発表内容、討論への貢献度による総合評価

研究分野…比較社会学・家族人口学（家族・人口・社会構造の地理的・歴史的比較研究）

募集人数…10名程度

試験方法…提出課題と面接

学科指定…なし

関連パッケージ…とくに指定しない。各自の問題関心に応じて選択すること。

関連科目…社会学系、国際系、地域系、政策系の科目



◆ **ゼミナールの研究テーマ**

判断や行動の心理学的基盤に関する研究

◆ **研究内容**

＜外国書研究・原典研究＞

社会心理学の専門書あるいは英文学術誌を輪読する。まずは von Hippel et al. (2020) *Evolutionary foundations of social psychology, Handbook of Basic Principles (3rd Edition)* から読み始め、その中で引用されている論文の中で関心をもった論文を読み進める予定である。

＜卒業論文・3年次＞

3年次春学期には、教員が選定した論文をもとにグループごとに実験研究を実施する。春学期の最後に実験研究の成果をまとめて発表し、さらにそれを論文形式（5000字程度）でまとめる。3年の秋学期は卒業論文に向けて、関心をもった領域の文献を読み進める。

＜卒業論文・4年次＞

各自が関心のある論文を選定し、それにもとづき実験（あるいは調査）を行い、実験（調査）論文としてまとめる。あるいは、関心をもった領域の論文をまとめ、レビュー論文としてまとめる（熱意ある者は、心理学の学術論文投稿まで指導する）。

＜卒業論文例＞

(1) 自己肯定化が脅威情報に対する反応に及ぼす影響、(2) ワーキングメモリとスポーツにおける能力との関連性、(3) 進化心理学の視点から解く異性間の恋愛に対する考え方の違い、(4) なぜアイドルオタクは辞められないのか、(5) コストリーシングナリングの観点から検討した手紙の価値、等々。

◆ **応募学生に対する希望**

このゼミナールでは社会心理学的実験・調査を行い、人の心の働きを明らかにしていく。人や社会に対して関心がある学生、ゼミナールを通じて自分を成長させたいという熱意のある学生、素直な学生を希望する。

◆ **成績評価方法**

卒業論文：卒業論文への取り組み（発表等） 40%、卒業論文の評価60%

外国書研究・原典研究Ⅰ：授業での発表および貢献度100%

外国書研究・原典研究Ⅱ：授業での発表および貢献度100%

研究分野…判断や行動におけるバイアス、対人関係心理学、心の進化的基盤

募集人数…10名程度

試験方法…身上書、面接（状況によってはZoomによる面接をおこなう）

学科指定…無し

関連パッケージ…c 社会学系

関連科目…現代社会心理学、消費心理学、産業心理学、社会調査法

◆ ゼミナールの研究テーマ

【これからの「働く」を考える・デザインする】

「働く」ことは、様々な人との関わりの中で学びながら成長する、私たちの生涯を通じて続く活動です。グローバル化や情報化の進展により職場環境や働き方が大きく変わる中で、私たちが「自分らしく生き活きと働く」ためには、何が必要なのでしょうか。

ゼミでは(1)組織や職場環境、(2)個人の心理やスキル、の両面から、働く人が仕事に意義を見出し、生き活きと働ける職場や組織のデザインについて考えます。リーダーシップ、チームワーク、働きがい、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ&インクルージョン等、より良く働き、学ぶための理論や考え方を学ぶとともに、自分の働く場を改善し、新しい環境を創造できる人材の育成を目指します。

◆ 研究内容

<外国書研究>

Harvard Business Review の中から各自が好きなエッセイを選び、報告します。

<卒業論文・3年次>

春学期はグループ研究を行います。2022年度は「職場にさらなる交流を!」「理想の上司への道」と題して30代社員のストレスに関する質問紙調査やインタビュー調査を実施し、企業に改善案を提案しました。文献は鈴木竜太・服部泰宏著『組織行動』(有斐閣, 2019年)を輪読するほか、グループ研究に関連する文献も講読します。グループ研究の成果は、夏合宿やゼミナール発表会で発表し、『政経セミナー』に投稿します。秋学期後半からは卒業論文のテーマを検討し、関連文献を読み進めます。

<卒業論文・4年次>

卒業論文に取り組みます。文献研究だけでなく、質問紙調査やインタビュー調査を行うことを奨励します。進捗はゼミで発表しフィードバックし合います。

<卒業論文例>

- ・上司の理想的なマネジメントー男性従業員の仕事と家庭の両立を実現させるにはー
- ・職務ストレスと性格特性ーセルフモニタリング能力の高い就労者は量的負担感によるストレスが高いのかー
- ・就職活動における自己分析に関する研究ー自己理解に効果的な自己分析の方法とは

◆ 応募学生に対する希望

ゼミは、自らが主体的に学び考えを発表するだけでなく、メンバーが相互に意見を述べ合い、議論を通じて共に成長する場です。学びへのモチベーションを保ちつつ、積極的にゼミや行事(合宿など)に貢献する学生を歓迎します。欠席の多い場合や意欲的な関わりが見られない場合は、たとえ中途であっても受講を停止する場合があります。

◆ 成績評価方法

出席およびゼミへの参画度、発表内容・提出物の質で評価を行います。

研究分野…働く人の主体的なキャリア形成を支える学習環境、産業・組織心理学、組織行動

募集人数…10名程度

試験方法…面接および身上書

学科指定…無し

関連パッケージ……c 社会学系パッケージ、i 産業社会系パッケージ

関連科目……産業心理学、現代心理学、現代社会心理学

◆ **ゼミナールの研究テーマ**

目標は2つある。第1は、ジャーナリズム、つまりマス・メディアがになう多くの役割のなかで、とくにニュースの報道や時事問題についての解説や論説に焦点を絞り、その特質や問題点を総合的に論じること、第2は、最高学府における就学の総決算として、最終的に受講者すべてが学術的に意義のある「卒業論文」を執筆すること、である。

なお、本教員が指導できる分野は、ジャーナリズムに関わる諸問題（とくに歴史）である。アンケート調査や統計などを使った量的な研究は指導できないことを断っておく。

◆ **研究内容**

## &lt;外国書研究&gt;

3年次（とくに春学期）ではジャーナリズムに関する特定の題材を設定し、ひたすらディスカッションをくり返すが、その準備のため多くの文献（英文を含む）を精読する。

## &lt;卒業論文・3年次&gt;

春学期では建設的な討論（ディスカッション）をくり返す。建設的な討論とは、共通の問題に対して受講者がお互いの意見を交換しあい、個人的に、また全体としてより深い問題解決・理解を旨とする共同作業を意味する。具体的には、ジャーナリズムに関する特定の題材を設定し、グループあるいは個人間でその内容についてひたすらディスカッションをくり返す。

秋学期では、当初はディスカッションをおこない、中盤以降から、卒業論文執筆への実質的な準備をはじめめる。研究テーマの選び方、論文の構成、アウトラインの作り方、論述の方法、文献・資料の集め方、注釈・文献一覧の作り方など、学術的な論文を書くために最低限必要な手順・方法・規範などを身につける。その上で各自が専門書籍（テキストやブックレットは不可）を最低5冊読み、仮の研究計画書を作成し、発表する。

## &lt;卒業論文・4年次&gt;

春学期では、早めにトピックを選定し、関連する文献や資料をできるだけ多く集め、それらを読み、論文全体の骨格を示したアウトラインを作成するまでを最低限の目標とする。

秋学期では、引きつづき文献や資料を精読しつつ、論文を完成に近づけてゆく。何回も経過を発表し、お互いに評価しあい、書き直す。この作業をひたすら何度もくり返す。

## &lt;卒業論文例&gt;

「酒類広告の形成とその規制」、「高齢者の交通事故と朝日新聞の報道の変化」など。

◆ **応募学生に対する希望**

最終目標である卒業論文の執筆は決して簡単な作業ではなく、多大な努力が長期間にわたり要求される。フルマラソンを走るようなもので、「数日徹夜すれば書ける」「どうにかなるだろう」などといった理由で受講すると、深く後悔することになる。少なくとも丸2年間は毎週、顔をあわせることを含め、くれぐれも慎重に考えた上で応募すること。

◆ **成績評価方法**

卒業論文、外国書・原典研究Ⅰ、外国書・原典研究Ⅱいずれについても、日常的な継続的努力とその成果を重視する。欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位を与えることはない。自発的かつ積極的な取り組みが評価を大きく左右する。なお、とくに4年次は就職活動と重なる場合が多いが、卒業後の就職と在学中の演習とはまったく無関係であり、評価においては考慮しない。

研究分野…ジャーナリズム論

募集人数…10名程度

試験方法…「身上書」により選抜するが、任意で1点に限り追加的に書面を提出してもよい（内容・書式・分量などは各人による）。応募者が募集人員を超えなくても、内容により落選する場合がある。なお、下記の関連科目、とくにジャーナリズム論を履修していることが望ましい。

学科指定…無し

関連パッケージ…c 社会学系、j 日本・アジア文化系、l 日本・アジア文化系

関連科目…ジャーナリズム論、マスメディア論、メディアコミュニケーション論、メディアと世論